

移動性高気圧に覆われ日本海ダクト発生！ 寒気の影響で北日本は日中限定？

2004年5月1日 JG0TEV 中村

移動性高気圧が本州付近を覆い、日本海ダクト発生によるオープンが確認されました。
ただし、北日本は寒気の影響が残ったために夜間はダクトが消失していたと考えられます。



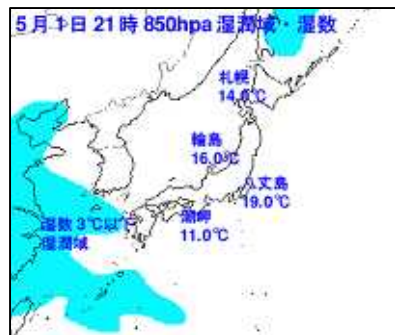
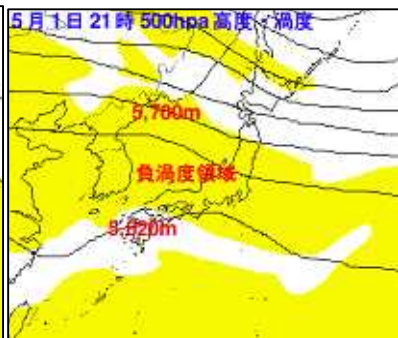
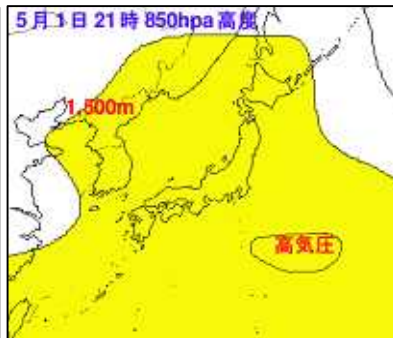
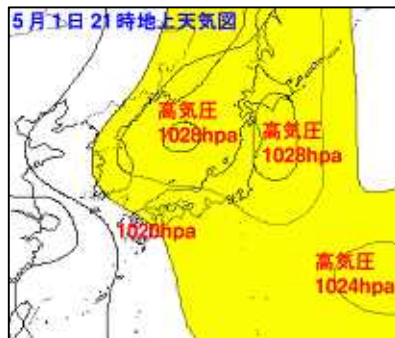
日中(14時過ぎ)8~0エリア間オープンを確認した
14時過ぎ
JG8XCX/8(北海道松前郡)-JG0TEV/0(新潟・弥彦村モバイル)
で交信成立！

夜間ダクト発生による3~9.0エリア間オープンを確認した
19:02 JG3UJH/3(兵庫・養父市)-JG0TEV/0(新潟・長岡市)
RS55-57 FM

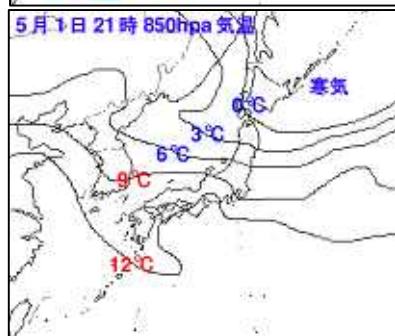
19:20 JH9DIR/9(富山・射水郡)-JG0TEV/0(新潟・長岡市)
RS59-59 FM

気象解析

地上天気図では日本海と三陸沖に移動性高気圧があります。
850hpa面をみると、1,500mの等高度線が挑戦均等北部から沿海州付近を通ってオホーツク海南部まで北上していることがわかります。
500hpa面を見ると、5,700mの等高度線が日本海北部まで北上していて西日本にはリッジが解析されています。
500hpa面の負渦度領域は日本付近を広く覆っています。
以上から、本州付近は高気圧に覆われていたことが解析できます。



850hpa面の湿潤域・湿数をみると、本州付近に乾燥空気が流れ込んでいたことがわかります。
以上から、本州付近はダクト発生条件がそろいやすい状態であったと考えられます。



しかし、850hpa面の気温分布を見ると北日本は寒気に覆われていて日本海中部でも6しかあがりません。
以上のことから、北日本では地上付近の気温が上がった日中を中心にダクトが形成されたものの、夕方以降は消失したものと推定します。
日本海南部では上空の気温も9以上あり、夜間もしばらくの間はダクトが形成され続けていたのではないかと考えます。